



2002年6月14日 第2002-54号

【発行】J A M

【発行責任者】大山勝也

【編集】社会政策局

03-3451-2586

E-MAIL : syakai@jam-union.or.jp

連合・笹森会長怒

「今日、政府は民主主義を殺した！！

こんな政府は叩きつぶせ！！」

健保法、与党単独強行採決

6月14日、衆議院・厚生労働委員会で、与党は健保法等改正法案について、単独で採決を強行しました。

13日夜、与党のみで理事会を開催し、野党委員が欠席の場合でも委員長職権で委員会を開催することを決定しました。14日午前9時、厚生労働委員会・森委員長は「野党委員に出席要請を行ったが、出席していない。やむを得ず会議を開会する」と宣言。昨日の地方公聴会報告に続いて与党委員の質疑がありました。与党委員は、「実質60時間以上審議を行い、論点が絞られてきたので、委員会として決議が必要である」と強調しました。

質疑の途中、続々と野党議員がつめかけ、公明党・福島委員の質疑が終了するやいなや、野党議員が委員長につめより、採決を阻止しました。しかし10時13分、怒号の中、与党単独で強行採決されました。

国会前座り込み、1000人参加

14日午前9時より、連合は、国会前座り込み行動を行いました。「強行採決」の一報が流れる

と、参加者からため息と怒りの声があがりました。連合・笹森会長は、「今日、政府は民主主義を殺した！こんな政府は叩きつぶせ」と強い怒りを表明しました。

JAM本部書記局もこの行動に参加し、津田教育行動局長が決意表明を行いました。また鍵田衆議院議員も、JAM本部書記局員とともに、座り込みに参加しました。

野党4党

**「健保法案の強行採決に
強く抗議する談話」(要旨)**

本日、自民・公明・保守の与党三党は、野党不在の衆議院厚生労働委員会において、健保法等改正案を与党単独で強行採決した。我々は、この言語道断な行為に対して激しい怒りを禁じ得ない。

我々は、与党の民主主義・国会に対する冒涇とも言える委員会運営に強く抗議するとともに、このような採決は当然無効であり、撤回を強く求める。併せて、公正中立であるべき森英介・厚生労働委員長が、与野党合意のない日程を無理やり設定し、強引に採決を行ったことも極めて重大な問題であり、厳しく指弾するものである。

政府の改正案は、医療制度の抜本改革をすべて先送りにして、患者に負担増を求めるだけの本末転倒の内容である。われわれ野党4党は、国民・世論を無視した政府・与党に毅然と対決し、今後とも国民の立場からの医療制度改革に取り組む決意である。